

社会情報学科専門科目（令和4年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目	40010		行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40020		情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
	40031		ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
	40040		統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間 社会と 心理	40110		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
	40120		社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		教養
	40135		地域社会学 社会調査演習	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40150		環境社会学	2	30	2	前期	中川 恵		教養
	40170		社会心理学	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦	教養	
	40180		集合行動論 社会心理学演習	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦	教養	
	40200		政治心理学	2	30	1・2	前期	亀ヶ谷雅彦	教養	
			認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論 ファイナンス演習	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		教養
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	鈴木 久美	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	平野 智久		教養
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		教養
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	董 彦文	連続2時限の授業をもって1回の 授業となる	教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		教養
	40391		企業経営論 経営情報演習	2	30	1	後期	高浜 快斗		教養
				2	30	2	前期	高浜 快斗		
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論 メディア制作演習	2	30	1・2	後期	小池 隆太	連続2時限の授業をもって1回の 授業となる	教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40561		メディアリテラシー 応用データ分析	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40571		情報コミュニケーション	4	60	1・2	後期	伊豆田義人	教養	
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人	教養	
	40590		データベース概論 プログラミング1 プログラミング2	2	30	1	後期	西川 友子	連続2時限の授業をもって1回の 授業となる	教養
				2	30	2	前期	西川 友子		教養
				2	30	2	後期	西川 友子		教養
40620		I T概論	2	30	1・2	前期	西川 友子	教養		
基礎 ゼミ	40710		基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵	開講せず	
	40720		基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
	40730		基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
	40740		基礎ゼミ四	2	30	1	後期	鈴木 久美		
	40750		基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	—		
	40770		基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ			専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵		
			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	鈴木 久美		
			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
			専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
			専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

社会情報学科専門科目（令和3年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目			行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
			ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
			統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間 社会と 心理	40120		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
			社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40140		社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
			社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40190		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
40210		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		教養
	40330		ファイナンス演習	2	30	2	前期	鈴木 久美		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	平野 智久	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	高浜 快斗		教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		
			企業経営論	2	30	1	後期	高浜 快斗		
40400		経営情報演習	2	30	2	前期	高浜 快斗			
メ デ ィ ア 表 現 と 情 報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40540		メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	教養	
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人	教養	
	40571		情報コミュニケーション	4	60	1・2	前期	伊豆田義人	連続2時限の授業をもって1回の 授業となる	教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
			データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
	40613		プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
	40614		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
40620		I T概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基 礎 ゼ ミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵	開講せず	
			基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
			基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
			基礎ゼミ四	2	30	1	後期	鈴木 久美		
			基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	—		
			基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専 門 ゼ ミ	40810		専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵		
	40820		専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
	40830		専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
	40840		専門ゼミ四	4	60	2	通年	鈴木 久美		
	40850		専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
	40860		専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
	40870		専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
	40880		専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
	40890		専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
40910		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「[]○数字」は選択必修単位

講義科目名称：行動科学概論（40010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 行動科学の実証的研究法について理解する。 2. スタディスキル（大学での勉強の仕方）を身につける。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 行動科学とは何か</p> <p>第3回 文献を探そう</p> <p>第4回 レポートを書こう</p> <p>第5回 発表しよう</p> <p>第6回 条件付け</p> <p>第7回 実証的研究法を知ろう</p> <p>第8回 統計ソフトを使ってみよう（Rの使い方）</p> <p>第9回 統計ソフトを使ってみよう（Rで統計分析）</p> <p>第10回 フィールドワークをしよう</p> <p>第11回 アンケートを書こう</p> <p>第12回 実験をしよう（記憶の実験）</p> <p>第13回 実験をしよう（Rで統計分析）</p> <p>第14回 研究計画を書こう</p> <p>第15回 ディスカッションをしよう</p>
授業概要	行動科学の考え方、特にデータを集め、仮説を立て、分析するといった実証的研究法に焦点を当てて講義を行う。また、文献の探し方やレポートの書き方といった「スタディスキル（大学での勉強の仕方）」についても説明する。期末レポート以外にも随時、Teamsを使って課題を出すので、作業をしながら実践的に学んでほしい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会科学や心理学の分野で卒業研究をまとめた人や、将来、編入先の大学や会社などで、実験やアンケート調査、商品テストなどに携わりたい人に、この科目は役立つと思います。なお、データの分析法についてさらに深く学びたい人は、「統計学入門」「社会調査演習」「情報処理演習Ⅱ」などの科目も履修するといいでしよう。
評価方法	期末レポート・その他課題（70%）、授業への参加度（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：情報社会論（40020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアと社会のありかたについて主要な論点を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	1. メディア社会論のために／2. ネットワーク化の来歴 読解編	
	第3回	1. メディア社会論のために／2. ネットワーク化の来歴 レポート作成編	
	第4回	3. モバイル・デバイスの来歴／4. コンテンツ・メディアの来歴 読解編	
	第5回	3. モバイル・デバイスの来歴／4. コンテンツ・メディアの来歴 レポート作成編	
	第6回	5. ソーシャル・メディアの功罪／6. デジタル・コンテンツの功罪 読解編	
	第7回	5. ソーシャル・メディアの功罪／6. デジタル・コンテンツの功罪 レポート作成編	
	第8回	7. ネット広告の功罪／8. ユビキタス/ビッグデータの功罪 読解編	
	第9回	7. ネット広告の功罪／8. ユビキタス/ビッグデータの功罪 レポート作成編	
	第10回	9. 変わりゆくリアリティ 読解編	
	第11回	9. 変わりゆくリアリティ レポート作成編	
	第12回	10. 変わりゆくコンテンツ 読解編	
	第13回	10. 変わりゆくコンテンツ レポート作成編	
	第14回	11. 変わりゆくテクノロジー 読解編	
	第15回	11. 変わりゆくテクノロジー レポート作成編	
授業概要	テキストに沿って、該当の章について2回にわたって取り扱います。1週目はテキストの内容を確認し、論題について意見交換します。2週目は実施した小レポートの成果を確認し、内容について意見交換します。受講生には、質問・コメント、小レポート、発表を求めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	テキスト編：テキストの該当箇所を事前に読み、不明点やコメント、議論したいことをアウトプットする。(30～60分) レポート編：論題に沿ってレポートを作成してアウトプットする。(40～80分)		
テキスト	辻泉ほか編、2018、『メディア社会論』有斐閣ストゥディア（ISBN-13:978-4641150553、冊子版 1,980円＋税）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎時間グループでの話し合いを予定しています。		
評価方法	小レポート：60%、発表：40%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：ウェブデザイン入門（40031）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	授業の目的は、（ア）ホームページの記述言語htmlの基本を学習すること、（イ）htmlによるホームページの作成方法を習得すること、（ウ）実践的にウェブデザインの基本を理解すること、（エ）タイピング能力を向上させることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。授業システムの解説 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本</p> <p>第3回 タイピングの訓練</p> <p>第4回 ウェブページの仕組み</p> <p>第5回 html5の基礎</p> <p>第6回 html5の基本的なタグ</p> <p>第7回 css3の基本的な事項</p> <p>第8回 html5とcss3との関係</p> <p>第9回 html5とcss3による制作</p> <p>第10回 ウェブページの基本的な構造の作成</p> <p>第11回 レイアウト作成の基本</p> <p>第12回 様々なレイアウトの作成</p> <p>第13回 ホームページの作成例</p> <p>第14回 サイトのひな形の作成</p> <p>第15回 期末課題(プロジェクト)の説明</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は放課後等の時間に、与えられた長文を入力し、宿題として提出する。htmlおよびcssの学習においては、授業での解説ならびに実習課題のほか、理論・概念への理解を深めるための宿題が毎回出される。期末には問題解決能力の向上を目的とした制作プロジェクトが与えられる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている実践的なスキルの習得を目的としているため、この合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学習範囲が広く、かつ課題が多いので、宿題の時間を確保しておいてください。特に、上記の「時間外学習」において、事後学習の時間の大部分はタイピング課題の作成に充てることになるので、事前経験の多少によりそれ以上の時間が必要となります。
評価方法	<p>入力課題：52%。 ※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=52点満点中0点』</p> <p>授業課題：16%。 期末課題：32%。</p> <p>減点の対象：</p> <p>(1) 公欠以外の欠席や無断退室等</p> <p>(2) 遅刻（出欠確認後）</p> <p>(3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p> <p>授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
参考文献	初回に紹介する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日常的に触れるデータの特性を理解し、データから情報を読み取り判断できるようにする。 2. 簡単な統計分析ができるようにする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・統計学概説</p> <p>第2回 母集団と標本・社会調査</p> <p>第3回 記述統計①：度数分布表・ヒストグラム</p> <p>第4回 記述統計②：分布の中心をあらわす尺度</p> <p>第5回 記述統計③：分布の散らばりをあらわす尺度</p> <p>第6回 正規分布①：正規分布</p> <p>第7回 正規分布②：標準正規分布表の利用</p> <p>第8回 区間推定①：母分散が既知の場合の母平均の推定</p> <p>第9回 区間推定②：母分散が未知の場合の母平均の推定</p> <p>第10回 統計的仮説検定①：検定概要</p> <p>第11回 統計的仮説検定①：母分散が既知の場合の母平均に関する検定</p> <p>第12回 統計的仮説検定②：母分散が未知の場合の母平均に関する検定</p> <p>第13回 2種類のエラー</p> <p>第14回 散布図と相関係数</p> <p>第15回 総復習</p>
授業概要	<p>【遠隔授業】 Teamsにアップされた資料を利用して学習します。 学習方法に関しては、Teams→火曜4限：40040統計学入門→Class Notebook→コンテンツライブラリー→講義の説明→講義の説明に記載しますのでご確認ください。</p> <p>【対面授業】 講義を主体とし、学習した統計手法について適宜練習問題を解きます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>予習：授業前に前回までの確認（用語の確認・概念の定着）を行ってください。</p> <p>復習：授業で学習したことの確認・知識の定着を行ってください。場合によっては計算練習などが必要です。（数学が得意な方は復習の必要はないかもしれませんが、数学が苦手な方は毎回1時間～2時間程度）</p>
テキスト	鳥居泰彦（1994）『はじめての統計学』、日本経済新聞出版社（2,233円＋税） 初回授業までにさわらび（購買）に入荷をお願いしてあります。事前に受講者数がわからないため、例年を大きく上回る受講希望者があった場合は売切れる可能性があります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>初回の授業には必ず出席してください。</p> <p>限られた時間で多くのことを学ぶので復習が必須です。</p> <p>前回までの授業で行ったことを前提として進むので、理解していない（復習しない）と授業にまったくついていけなくなります。</p> <p>電卓（ルートの計算機能必須）を利用します。</p>
評価方法	<p>評価方法に関しては、第1回の講義またはTeams→火曜4限：40040統計学入門→Class Notebook→コンテンツライブラリー→講義の説明→講義の説明で説明しますが、概ね以下の通りです。</p> <p>【対面授業または1月が対面授業の場合】</p>

	<p>期末試験（100%）</p> <p>【全期間または1月が遠隔授業の場合】 遠隔期間により、配分が異なりますが、授業内課題・期末課題・レポート等で総合的に判断します。</p>
参考文献	<p>数学が苦手な人用：小島寛之（2006）『完全独習 統計学入門』，ダイヤモンド社. 編入試験or編入後に統計が必要な人用：東京大学教養学部統計学教室編（1991）『統計学入門』，東京大学出版会.</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料はTeams→火曜5限：40040統計学入門にアップされます。第2回以降は授業登録者のみアクセスできます。 ・電卓（ルート機能の付いたもの）が必要です。

講義科目名称：社会学(社) (40110)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と考え方を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	目標と方針の共有/Teamsの基本動作確認/人と「社会」とのかかわり方	
	第2回	出生：妊娠や出産と「選択」 ほか テキスト編	
	第3回	出生：妊娠や出産と「選択」 ほか レポート編	
	第4回	学ぶ/教える：なぜ教育が義務化されるのか ほか テキスト編	
	第5回	学ぶ/教える：なぜ教育が義務化されるのか ほか レポート編	
	第6回	働く：働かなくてよいのが「良い社会」？ ほか テキスト編	
	第7回	働く：働かなくてよいのが「良い社会」？ ほか レポート編	
	第8回	結婚・家族：「見合い婚」の不思議 ほか テキスト編	
	第9回	結婚・家族：「見合い婚」の不思議 ほか レポート編	
	第10回	病い・老い：病むことはどのような経験か ほか テキスト編	
	第11回	病い・老い：病むことはどのような経験か ほか レポート編	
	第12回	死：死のポルノグラフィ化 ほか テキスト編	
	第13回	死：死のポルノグラフィ化 ほか レポート編	
	第14回	科学・学問：科学と社会はどのような関係にあるのか ほか テキスト編	
	第15回	科学・学問：科学と社会はどのような関係にあるのか ほか レポート編	
授業概要	テキストに沿って、該当の章について2回にわたって取り扱います。1週目はテキストの内容を確認し、論題について意見交換します。2週目は実施した小レポートの成果を確認し、内容について意見交換します。受講生には、質問・コメント、小レポート、発表を求めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	テキスト編：テキストの該当箇所を事前に読み、不明点やコメント、議論したいことをアウトプットする。(30～60分) レポート編：論題に沿ってレポートを作成してアウトプットする。(40～80分)		
テキスト	筒井淳也・前田泰樹著、2017、『社会学入門 社会とのかかわり方』有斐閣ストゥディア (ISBN-13: 978-4641150461、冊子版 2000円+税)		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	毎時間グループでの話し合いを予定しています。		
評価方法	小レポート：60%、発表：40%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会ネットワーク論（40120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
坂口 奈央			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常の何気ないこと、当たり前を疑い、なぜそうなるのか、社会に起きるあらゆる出来事に対し関心を持ち、用語を正しく理解したうえで、自分なりの明確な見解、問題意識をもち、それを言語化できるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 人と人とのつながりを図に表してみよう</p> <p>第2回 距離感からつながりを考えるージンメル「よそ者」6冊より</p> <p>第3回 断絶／連帯、差別／寛容</p> <p>第4回 グループディスカッション、発表</p> <p>第5回 レポート作成</p> <p>第6回 疫病と災害について考えるー社会の脆弱性</p> <p>第7回 非常時における人々の行動特性</p> <p>第8回 ジェンダーと多様な視点からのものの見方</p> <p>第9回 グループディスカッション、発表</p> <p>第10回 レポート作成</p> <p>第11回 レジリエンスと社会のあり方</p> <p>第12回 ソーシャルキャピタルは成り立つのか</p> <p>第13回 ポストコロナ時代を予測しよう</p> <p>第14回 グループディスカッション、発表</p> <p>第15回 レポート作成</p>
授業概要	最近取り上げられた新聞記事など社会問題を切り口とし、日本社会を巡るネットワークの現実と課題を取り上げる。また随時グループディスカッションを行う。
実務経験及び授業の内容	担当者は、元民放テレビ局員である。他者にどのように伝えるのか、どのようにしたら伝わるのかを体得してもらえよう、授業では頻繁に意見を述べる機会をつくる。また新聞など身近な社会問題を取り上げる記事や文章を読み、テーマ設定後、グループディスカッションを行う
時間外学習	新聞記事を読み、今の社会の流れを自分なりにとらえるトレーニングを日々積み重ねてください。
テキスト	指定テキストなし。資料は、授業中に配布する
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業内で感じた問題意識や自分ならどんな取り組み方をしたいか、見解をレポート並びに発表をしてもらえよう。また、随時発表や意見をのべてもらおう。他者への説得力ある話し方を身につけられるように。なお、遅刻は認めません。
評価方法	授業内に3回実施する課題小レポート、授業内での発言内容
参考文献	
備考	

講義科目名称：地域社会学（40135）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	地域社会学の主要な用語と考え方を理解し、実際の事例に結びつけて考察する。		
授業計画	第1回	目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／都市社会学の問い	
	第2回	都市社会学の始まり／アーバニズム テキスト編	
	第3回	都市社会学の問い／都市社会学の始まり／アーバニズム レポート編	
	第4回	都市生態学と居住分化／地域コミュニティ テキスト編	
	第5回	都市と社会的ネットワーク テキスト編	
	第6回	都市生態学と居住分化／地域コミュニティ／都市と社会的ネットワーク レポート編	
	第7回	都市圏の発展段階／情報化・グローバルと都市再編 テキスト編	
	第8回	都市圏の発展段階／情報化・グローバルと都市再編 レポート編	
	第9回	インナーシティの危機と再生／郊外のゆくえ テキスト編	
	第10回	インナーシティの危機と再生／郊外のゆくえ レポート編	
	第11回	都市再生と創造都市／文化生産とまちづくり／アジアの都市再編と市民 テキスト編	
	第12回	都市再生と創造都市／文化生産とまちづくり／アジアの都市再編と市民 レポート編	
	第13回	ボランティアと市民社会／都市の防災力と復興力 テキスト編	
	第14回	ボランティアと市民社会／都市の防災力と復興力 レポート編	
	第15回	『都市社会学・入門』を読み終えて	
授業概要	テキストに沿って、該当の章について2回にわたって取り扱います。1週目はテキストの内容を確認し、論題について意見交換します。2週目は実施した小レポートの成果を確認し、内容について意見交換します。受講生には、質問・コメント、小レポート、発表を求めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	テキスト編：テキストの該当箇所を事前に読み、不明点やコメント、議論したいことをアウトプットする。（30～60分） レポート編：論題に沿ってレポートを作成してアウトプットする。（40～80分）		
テキスト	松本康編、2014、『都市社会学・入門』有斐閣（定価本体2,000円＋税） ISBN978-4-641-22015-7		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎時間グループでの話し合いを予定しています。		
評価方法	小レポート：60%、発表：40%		
参考文献	適宜指示する。		
備考			

講義科目名称：社会調査演習（40140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	社会調査の基礎的知識を基に、課題に応じた社会調査の手法や内容を構想し、実施する。		
授業計画	第1回	イントロダクション（講義方針の共有）	
	第2回	社会調査とは何か	
	第3回	フィールドワーク	
	第4回	参与観察	
	第5回	生活史	
	第6回	課題の設定	
	第7回	経過報告	
	第8回	経過報告	
	第9回	経過報告	
	第10回	経過報告	
	第11回	経過報告	
	第12回	経過報告	
	第13回	経過報告	
	第14回	経過報告	
	第15回	まとめ	
授業概要	この科目では、次の2つのパターンのどちらかでレポート作成を行います。 (1)Office365の”Forms”を使ってこの科目の受講生へアンケートを実施し、その結果を使ってレポートを作成する。 (2)既存の研究成果の要約と考察から構成するレポートを作成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は各自面談の時間外学習としてすすめてください。講義時間は個別（またはグループでの）面談に優先的に時間を充てます。面談では、テーマの絞り込み、レポートへの意見交換、調査内容の改良をおこないます。		
テキスト	なし 適宜指示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			
評価方法	課題（100%）		
参考文献	岸政彦ほか、『質的社会調査の方法 他社の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア。 菅原和孝編、『フィールドワークへの挑戦 〈実践〉人類学入門』世界思想社。 宮内泰介・上田昌文、『実践 自分で調べる技術』岩波書店。 山田奨治編著、『マンガ・アニメで論文・レポートを書く 「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房。		
備考			

講義科目名称：環境社会学（40150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	環境社会学の主要な用語と考え方を理解し、実際の事例に結びつけて考察する。		
授業計画	第1回	目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／調査の手法	
	第2回	人間社会と環境を考える テキスト編	
	第3回	人間社会と環境を考える レポート編	
	第4回	自然保護を考える／身近な自然を考える テキスト編	
	第5回	自然保護を考える／身近な自然を考える レポート編	
	第6回	生活と水を考える／農と食を考える テキスト編	
	第7回	生活と水を考える／農と食を考える レポート編	
	第8回	ゴミ問題を考える／環境NPO・NGO・市民活動を考える テキスト編	
	第9回	ゴミ問題を考える／環境NPO・NGO・市民活動を考える レポート編	
	第10回	まちづくり・地域づくりと環境を考える／歴史的環境と景観を考える テキスト編	
	第11回	まちづくり・地域づくりと環境を考える／歴史的環境と景観を考える レポート編	
	第12回	公害・差別・リスクを考える／開発と資源・エネルギー問題を考える テキスト編	
	第13回	公害・差別・リスクを考える／開発と資源・エネルギー問題を考える レポート編	
	第14回	地球環境問題を考える テキスト編／『よくわかる環境社会学』を読み終えて	
	第15回	『よくわかる環境社会学』を読み終えて	
授業概要	テキストに沿って、該当の章について2回にわたって取り扱います。1週目はテキストの内容を確認し、論題について意見交換します。2週目は実施した小レポートの成果を確認し、内容について意見交換します。受講生には、質問・コメント、小レポート、発表を求めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	テキスト編：テキストの該当箇所を事前に読み、不明点やコメント、議論したいことをアウトプットする。（30～60分） レポート編：論題に沿ってレポートを作成してアウトプットする。（40～80分）		
テキスト	鳥越皓之・帯谷博明編著、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房（定価本体28,000円＋税）ISBN978-4-623-07934-6		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎時間グループでの話し合いを予定しています。		
評価方法	小レポート：60%、発表：40%		
参考文献	適宜指示する。		
備考			

講義科目名称：社会心理学（40170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	印象形成	
	第3回	帰属	
	第4回	推論と問題解決	
	第5回	自己	
	第6回	性格と社会的性格（性格）	
	第7回	性格と社会的性格（社会的性格）	
	第8回	態度（態度の一貫性）	
	第9回	態度（認知的不協和）	
	第10回	説得（精査可能性モデル）	
	第11回	説得（効果的な説得とは）	
	第12回	ノンバーバル・コミュニケーション	
	第13回	同調（古典的研究と服従の心理）	
	第14回	同調（どんな時に同調するか）	
	第15回	役割	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、社会的認知、対人関係、集団内行動といった、主に個人の内部や対人間で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「心理学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも挙手などで参加してください。なお、後期の「集合行動論」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	期末レポート・その他課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：集合行動論（40180）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	利他主義（援助行動）	
	第3回	リーダーシップと集団思考（リーダーシップの理論）	
	第4回	リーダーシップと集団思考（集団成極化現象）	
	第5回	映像でみる集団思考	
	第6回	犯罪心理学とプロファイリング	
	第7回	集団間差別と偏見（集団間葛藤）	
	第8回	集団間差別と偏見（社会的アイデンティティ理論）	
	第9回	交換理論	
	第10回	ゲーム理論と社会的ジレンマ	
	第11回	群集とパニック	
	第12回	流言とデマ	
	第13回	世論とマスコミ	
	第14回	文化	
	第15回	異文化間コミュニケーション	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、集団間行動、集合行動、文化といった、主に集団間や組織されない集団、社会で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「社会的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも挙手などで参加してください。なお、前期の「社会心理学」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	期末レポート・その他課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会心理学演習（40190）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング体験を通して、自己理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	SGEとは	
	第3回	SGEエクササイズを紹介	
	第4回	教育ゲーム体験（クロスロード）	
	第5回	グループ分け・SGEエクササイズの選定	
	第6回	SGEエクササイズのリメイク	
	第7回	SGE体験	
	第8回	SGE体験	
	第9回	SGE体験	
	第10回	SGE体験	
	第11回	SGE体験	
	第12回	SGE体験	
	第13回	SGE体験	
	第14回	SGE体験	
	第15回	ふりかえり	
授業概要	SGE（構成的グループエンカウンター）について学ぶ。その後、SGE体験を通して理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	なし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>カウンセリングに興味のある学生や、ピアヘルパーの有資格者および資格取得を希望する学生を歓迎します。毎回出席を取りますので、できるだけ休まないようにしてください。就職活動や教育実習などで休む場合は事前に連絡してください。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルス流行下でも実施可能な内容にSGEエクササイズをリメイクしながら進めていきたいと思っております。学生の皆さんも知恵を貸してください。</p>		
評価方法	授業への参加度（70%）、提出課題など（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：政治心理学（40200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	政策決定ゲームを作ろう	
	第5回	イデオロギー（これまでの変遷）	
	第6回	イデオロギー（新しい価値観）	
	第7回	映像でみるイデオロギー（前編）	
	第8回	映像でみるイデオロギー（後編）	
	第9回	政党と政党支持	
	第10回	映像でみる選挙	
	第11回	政治的パーソナリティ	
	第12回	政治的社会化	
	第13回	テロリズム	
	第14回	映像でみるテロリズム（前編）	
	第15回	映像でみるテロリズム（後編）	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関するトピックを取り上げます。ドキュメンタリー映画などの映像を見る機会を多めに取っており、自治体の政策を調べる課題などもあるので、履修者の皆さんは主体的に取り組んでみてください。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	期末レポート・その他課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：認知心理学（40210）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 認知心理学への理解を深める。</p> <p>到達目標 認知心理学の基本用語（キーワード）の意味の概要を説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 心理学の領域における認知心理学の位置づけ（認知心理学とはどのような学問か）</p> <p>第2回 記憶①（記憶の精緻化方略）</p> <p>第3回 記憶②（記憶と再生）</p> <p>第4回 言語を理解する認知過程</p> <p>第5回 文章を理解する認知過程</p> <p>第6回 言語の外在的意味と内在的意味</p> <p>第7回 第1回から第6回までのまとめ</p> <p>第8回 問題解決力に必要な要素</p> <p>第9回 類推的思考</p> <p>第10回 演繹的思考</p> <p>第11回 帰納的思考</p> <p>第12回 適切な原因帰属に必要な要素</p> <p>第13回 メタ認知</p> <p>第14回 クリティカルシンキング</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	各授業ごとに、導入で内容理解に必要なキーワードを明確にします。さらに、展開でキーワードをふまえて解説を行い、週末でキーワードについて自分の言葉でまとめる時間を設定するようにします。
実務経験及び授業の内容	学校心理士として中学校で勤務した実務経験を生かして授業を行います。
時間外学習	定期的レポートや提出課題を課します。期日厳守で提出してください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	認知心理学は脳がどのように働いて人間の行動を決定しているのかを考察する学問でありコンピュータの発展を支えるように深化してきました。全15回の講義を通して少しずつ考えを積み重ねて、自分なりに気づくことを見つけ、認知心理学への理解を深めてほしいと思います。
評価方法	授業・ワークシート・提出課題（関心意欲態度・思考）70% レポート（知識定着・思考）30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：経済学入門（40310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常生活とミクロ経済学，マクロ経済学の概念の融合を目的とします。 新聞やテレビの経済ニュースを経済理論で説明できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス シラバス内容に関して詳しく説明します。 受講の際の注意について説明します。 対面授業～遠隔授業をいくつかの段階にわけて進め方について説明します。</p> <p>第2回 市場・需要・需要曲線</p> <p>第3回 需要曲線のシフト・消費者余剰・供給・供給曲線</p> <p>第4回 供給曲線・供給曲線のシフト・生産者余剰</p> <p>第5回 市場均衡・均衡の変化</p> <p>第6回 確認課題(1)・確認課題(1)の解答</p> <p>第7回 国際貿易</p> <p>第8回 GDP①：定義など</p> <p>第9回 GDP②：名目と実質・経済成長率</p> <p>第10回 国民所得の決定①：民間消費・投資・政府支出</p> <p>第11回 国民所得の決定②：均衡国民所得</p> <p>第12回 財政乗数・租税乗数</p> <p>第13回 開放経済</p> <p>第14回 確認課題(2)・確認課題(2)の解答</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	講義形式を主体とします。テーマごとに講義を受けた後、確認のために授業内課題を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：学習した概念を次回の講義で利用するので知識の定着をはかってください（必要時間：各自の理解度によるがおよそ30分～1時間程度）。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、積み上げていくタイプの科目なので毎回の講義をきちんと理解しないと次回の講義が理解できなくなる可能性があります。そのため、復習を厭わない方にお勧めします。 数学を利用します。
評価方法	【対面授業の場合】 期末テスト（80%）＋授業内課題（10%×2回） 【遠隔授業の場合】 授業課題，授業参加度（発言やノートなど），期末課題などで総合的に判断します。評価割合は遠隔授業期間によるため，第1回の授業で説明します。
参考文献	マンキュー『マンキュー 入門経済学』東洋経済新報社（3,200円＋税）
備考	TeamsとTeamsのClassNoteBookを利用します。 ClassNoteBookへのアクセスに関しては，米短の公式発表に従ってください。 第1回目は履修制限しませんが，第2回目以降は履修登録した学生のみ限定いたします。

講義科目名称：ファイナンス論（40320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	将来価値・割引現在価値を利用した住宅ローンや年金等の計算ができるようになること・ポートフォリオの基礎を理解し、株価を計算できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 利子率・単利と複利</p> <p>第3回 将来価値と現在価値</p> <p>第4回 投資先の選択</p> <p>第5回 アニュイティ（住宅ローン）・確認課題①</p> <p>第6回 確認課題①の解答・通貨が異なる場合（外国為替）の将来価値と現在価値</p> <p>第7回 実質金利・インフレーションがある場合の将来価値と現在価値</p> <p>第8回 株取引ゲームのルール説明・戦略および戦術レポート レポートには意見交換も含まれます。</p> <p>第9回 株取引ゲーム・期待値</p> <p>第10回 分析レポート・株価の算定 レポートには意見交換も含まれます。</p> <p>第11回 リスクの算定</p> <p>第12回 ポートフォリオ（安全資産と危険資産）</p> <p>第13回 ポートフォリオの収益率とリスク</p> <p>第14回 ポートフォリオの投資機会軌跡（トレードオフ線）・確認課題②</p> <p>第15回 確認課題②の解説・まとめ</p>
授業概要	<p>【遠隔授業】 講義は、資料およびTeamsを利用して行われます。</p> <p>【対面授業】 講義は、座学および経済学ゲーム（株取引）を利用した学習（アクティブラーニング）により構成されます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>予習：必要ありません。</p> <p>復習：講義で学習した知識の定着のため30分～1時間程度（個人の理解度による）。</p>
テキスト	必要になった場合、講義内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	将来設計を考えるうえで金銭の計算を抜きにすることはできません。楽しい老後のため、今から勉強しておきましょう。残念ながら、数学を利用します。
評価方法	<p>【全期間対面授業の場合】 期末試験60％、授業内課題2回（10％×2回）、株取引ゲーム（10％）およびそれに関する意見交換とレポート2回（5％×2回）</p> <p>【一部または全部遠隔授業の場合】 授業内課題・期末課題・株取引ゲーム・レポート等で総合的に判断します。詳しい内訳は遠隔期間によって異なるので、第1回の授業で場合分けして説明いたします。</p>
参考文献	ソヴォイ（2011）『現代ファイナンス論（第二版）』ピアソン
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・Teams→火曜5限：40320ファイナンス論に資料をアップする予定です。 ・電卓（ルート機能の付いたもの）が必要です。

講義科目名称：ファイナンス演習（40330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ファイナンス論で学習したトピックを実際の生活（投資）に応用できるようにすることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス シラバス内容の詳しい説明をします。 特に授業の進め方など説明するので必ず確認してください。	
	第2回	金融市場（資本市場）	
	第3回	株式と債券	
	第4回	チャートの読み方	
	第5回	四季報の読み方①：四季報とは	
	第6回	四季報の読み方②：材料記事・ROE・ROAなど	
	第7回	四季報の読み方③：財務状況・資本構成など	
	第8回	四季報の読み方④：株式分割など	
	第9回	日経平均・東証TOPIXなど	
	第10回	景気と投資先①：景気下降局面	
	第11回	景気と投資先②：景気上昇局面	
	第12回	投資結果報告	
	第13回	投資結果分析①	
	第14回	投資結果分析②	
	第15回	まとめ	
授業概要	ファイナンス論で学んだポートフォリオ理論の応用を講義前半で講義し、それを利用したコンピュータ演習（投資）を講義後半に行います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	株式取引に必要な時間（デイトレーディングをする人は毎日30分以上、長期保有をする人は週1回10分程度）。 株価に変動を与える要因についての知識吸収のため、ニュースや新聞を見るのに必要な時間。		
テキスト	必要に応じて授業内で紹介します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンス論でのポートフォリオの収益率とリスクの関係について理解できていることを前提に講義を行います。 数学の予備知識があると講義の理解が容易になります。		
評価方法	最終的な投資結果（演習の成果）（100%）		
参考文献			
備考	第1回の講義には必ず出席してください。 就職活動等で出席できない場合は、授業時間前までにその旨メールにて連絡してください。 遠隔授業の場合は、Teams、ClassNoteBookを利用します。 TeamsやClassNoteBookへのアクセスに関しては、米短の公式発表に従ってください。 第1回は受講制限はしませんが、第2回目以降は履修登録した学生にのみ限定します。		

講義科目名称：簿記会計演習（40340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
平野 智久			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	企業の経済活動をどうやって表現するか？日常的な記録から財務諸表の作成及び基礎的な分析まで、講義と演習とを反復します。日本語を的確に読み取れる、各種法令や現代社会の動向に関心がある、といった点も肝腎です。		
授業計画	第1回	ようこそ、簿記・会計学の世界へ！ 日常会話を用いて、簿記・会計の基礎を紹介します。	
	第2回	仕訳&転記に慣れよう！／現金預金も。 現金取引を例として、丁字勘定への記入方法を学びます。	
	第3回	会計の歴史から何がみえるか？ 建物の減価償却を例として、「発生主義」の考え方を紹介します。	
	第4回	商品を仕入れて、顧客へ売り渡そう！ 三分法による商品売上の記帳、そして財務諸表の表示を学びます。	
	第5回	いろいろな債権・債務をもっと単純に！ 商品売買にかかわる債権・債務を中心に、仕訳例を紹介します。	
	第6回	いろいろな債権・債務をもっと単純に！（続き） 掛売りした代金の回収を例として、「引当金」の考え方を学びます。	
	第7回	従業員のみなさん、ありがとう！ 給料・賞与の支払を例として、「預り金」の考え方を紹介します。	
	第8回	営業費用を総まとめ！ 租税公課や交際費のほか、費用の見越・繰延についても学びます。	
	第9回	財務諸表を作って、眺めてみよう！	
	第10回	財務諸表を作って、眺めてみよう！（続き） 決算整理事項等を処理し、財務諸表の作成について特訓しましょう。	
	第11回	無形の資産への投資とは……？ 特許権やソフトウェアといった「無形固定資産」について紹介します。	
	第12回	じっと待つことで報酬を……？ 貸付金や債券投資を例として、金融活動の特徴を学びます。	
	第13回	資金調達を見直そう！／自己株式ってなんだろう……？ 増資や剰余金の配当を例として、株主との取引について学びます。	
	第14回	M&Aから連結会計を考えよう！ 吸収合併や株式交換を例として、連結会計の基本を紹介します。	
	第15回	財務諸表を作って、眺めてみよう！（続き） 実際の「決算短信」を閲覧し、基礎的な財務諸表分析を学びます。	
授業概要	（1限）新たに学ぶ論点を講義します。（2限）問題演習で定着を図ります。令和2年度に作成した講義動画がYouTube上にありますので、Teamsで共有します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎週3～4時間の問題演習を繰り返すことで、少しずつ気づく何かがあるはず。わかりづらい箇所はすぐに解消することで、効果的な学修となるでしょう。		
テキスト	平野智久[2019]『仕訳でかんがえる会計学入門』新世社。税抜1,850円。ISBN：978-4-88384-300-8。大学内の購買部で購入できます。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	初学者が対象ですが、全商簿記2級以上を取得していても「気づき」の多い授業となっているはず。友達との勉強会など、授業外の時間で問題演習を繰り返し、今夏（秋）の日商簿記3級を目指しましょう！「参考文献」はあくまで一例です。自分に合ったものを早めにご探してください。		
評価方法	期末試験の結果（60％）及び小テスト（40％）にもとづいて評価します。		
参考文献	TAC簿記検定講座[2022]『合格トレーニング日商簿記3級Ver.13.0』TAC出版。 蛭川幹夫[2019]『日商簿記ゼミ3級問題演習（改訂版）』実教出版。		
備考			

講義科目名称：電子商取引概論（40350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 電子商取引（EC），電子マネー，消費者としてECの効果的な活用方法とトラブル防止策を学んで，ECの基本教養を身につけてもらう。</p> <p>2. 事業者の視点から電子商店の開店方法と運営の基本知識を理解する。</p> <p>3. 電子商取引関連の法律に関する基本知識を勉強する。</p>
授業計画	<p>第1回 商取引と電子商取引</p> <p>第2回 電子商取引の特徴とその影, インターネットビジネス</p> <p>第3回 電子決済と具体的な決済方法</p> <p>第4回 電子マネー，キャッシュレス決済とFinTech（フィンテック）</p> <p>第5回 電子商取引に関連する法律と行政規制</p> <p>第6回 契約に関する基本知識と消費者契約法</p> <p>第7回 ネット物販業の基本とビジネスモデル</p> <p>第8回 情報提供仲介事業と関連ビジネスモデル</p> <p>第9回 コンテンツ販売事業，金融業における電子商取引</p> <p>第10回 電子商店の始め方，ネットオークションとネットフリマの活用</p> <p>第11回 電子ショッピングモールへの出店方法と独立型ネットショップの構築</p> <p>第12回 電子商店運営の基本知識と基本運営指標</p> <p>第13回 電子商店のマーケティング</p> <p>第14回 EC関連の最新話題（レポート）</p> <p>第15回 総合演習（レポート）</p>
授業概要	<p>消費者と事業者の視点から電子商取引（EC）の基本知識，基本技術および効果的な活用方法などを取り上げて講義する。インターネットの関連情報を活用し，様々な問題の答えを探求することも重視する。</p>
実務経験及び授業の内容	<p>担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発と電子商取引の導入に参加し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。</p>
時間外学習	<p>毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。</p>
テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。</p>
評価方法	<p>毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。</p>
参考文献	<p>1. 丸山正博：「電子商取引の進展—ネット通販とeビジネス」，八千代出版（2011）。</p> <p>2. 竹内謙礼：「成功者しか知らない ネットショップ運営 儲かる秘訣が2時間でわかる本」，双葉社（2004）。</p> <p>3. 二木紘三：「Eコマースのしくみ」，日本文芸社（2000）。</p>
備考	

講義科目名称：情報セキュリティ論（40360）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 一般利用者としての必要最低限な情報セキュリティ知識を身につけてもらう。 2. ネットワークにおける各種の危険性と脅威を理解のうえ、基本的な対策を習得する。 3. 情報セキュリティ関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 インターネットとその危険性</p> <p>第2回 情報セキュリティの定義：機密性，完全性，可用性とその他の特性</p> <p>第3回 盗聴の脅威とその対策，暗号化技術の基本知識</p> <p>第4回 侵入・なりすましの脅威と対策</p> <p>第5回 改ざん・破壊の脅威と対策</p> <p>第6回 マルウェア・ウィルスの脅威：基本知識，感染兆候と経路</p> <p>第7回 マルウェア・ウィルス感染防止と駆除対策</p> <p>第8回 情報セキュリティ関連法律のしくみと著作権法</p> <p>第9回 知的財産権と特許法・商標法，個人情報保護法</p> <p>第10回 コンピュータ犯罪防止法，不正アクセス禁止法と不当競争防止法</p> <p>第11回 クラウドサービスとセキュリティ</p> <p>第12回 SNSとSNSのプライバシー・セキュリティ問題</p> <p>第13回 スマートフォンのセキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティの最新話題</p> <p>第15回 総合演習とレポート</p>
授業概要	情報の盗聴，侵入，破壊とマルウェア・ウィルス感染などの様々な脅威から身を守るための基本知識，基本対策について講義する。インターネットの情報を活用して問題を解決する能力の養成も重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発とWebサーバーの設置・運営を担当し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 中村行宏：「情報セキュリティの基礎知識」，技術評論社(2017)。 2. 情報処理推進機構：「情報セキュリティ読本 五訂版：IT時代の危機管理入門」，実教出版(2018)。 3. 岩井博樹：「動かして学ぶセキュリティ入門講座」，SBクリエイティブ(2017)。
備考	

講義科目名称：経営学入門（40370）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経営学の基礎的な概念について学修し、実社会で生きていくためのキャリアデザインを描けるようになる、マネジメントの仕組みについて理解できる、という2点の能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	企業経営の全体像：企業とはどのような存在なのか	
	第2回	経営学の全体像：経営学は金儲けの学問なのか	
	第3回	企業と社会：企業形態と株式会社	
	第4回	企業とインプット市場との関わり	
	第5回	企業とアウトプット市場との関わり	
	第6回	競争戦略のマネジメントPart.1：「選ばれる」を作るプロセス	
	第7回	競争戦略のマネジメントPart.2：勝つ企業のパターンとは	
	第8回	多角化戦略のマネジメント：事業の範囲拡大，単一から複数へ	
	第9回	国際化のマネジメント：企業活動の地理的な拡がり	
	第10回	マクロ組織のマネジメント：組織構造のバリエーション	
	第11回	ミクロ組織のマネジメント：働く人をやる気にさせるためには	
	第12回	キャリアデザイン：人生とキャリアのデザイン	
	第13回	ファミリービジネスのマネジメント：創業者一族による経営	
	第14回	非営利組織のマネジメント：博物館や病院に経営は必要なのか	
	第15回	総括	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	ドキュメンタリー，ニュース，新聞等で本講義に関連するものがあれば，できるだけ閲覧すること。1回当たりの講義に対して，数時間程度の予復習をすることが望ましい。		
テキスト	加護野忠男・吉村典久編(2021)『1からの経営学(第3版)』碩学社。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どんなに難しいと思うようなことであっても，突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく，いかに簡単に捉えることができるか，という視点を身に付けていきましょう。本講義は，「ITパスポート」資格試験の出題範囲(ストラテジ系)を含みます。		
評価方法	試験(50%)，課題提出(50%)		
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞出版社。 経営能力開発センター編(2018)『経営学検定試験公式テキスト①経営学の基本』中央経済社。 高橋京介(2020)『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ。		
備考			

講義科目名称：経営情報論（40380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経営情報論の基礎的・応用的な概念について学修し、健全な情報社会の発展に参画できる能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	経営情報論の基礎：経営情報システムという考え方	
	第2回	経営情報論の基礎理論：システム概念とネットワーク概念	
	第3回	経営情報システムの変遷：経営情報システム関連概念の系統的な整理	
	第4回	復習と議論1	
	第5回	情報通信技術の進展：有効で効率的なビジネス活動を可能にする要因	
	第6回	経営情報システムの設計と開発：経営情報システムの設計・開発論の検討	
	第7回	経営情報システムの管理：経営情報システムの管理運営やリスク管理	
	第8回	復習と議論2	
	第9回	情報通信技術とビジネス・プロセス革新：ビジネス・プロセス革新との関連性	
	第10回	ネット・ビジネス：現代経済を牽引するネット・ビジネスの諸相	
	第11回	情報通信技術と組織変革：組織の構造的側面からの検討	
	第12回	情報通信技術と組織コミュニケーション：電子メディアや知識創造への考察	
	第13回	復習と議論3	
	第14回	総括1：情報行動の社会的影響と企業の対応	
	第15回	総括2：まとめと今後の展望	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。		
テキスト	授業内にて指定する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「経営情報論」とは、どのようなものなのでしょうか。意見交換や課題への取り組みを通じて、一緒に考えてみましょう。		
評価方法	試験(100%)		
参考文献	高橋京介(2020)『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ。		
備考	シラバスの内容については、変更になる場合がある。		

講義科目名称：企業経営論（40391）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	企業という対象に関する基礎的な概念について学修し、複雑かつ多面的な現代社会を見る視点を身に付ける。		
授業計画	第1回	現代社会を見る視点：歴史的概観と複数の企業観	
	第2回	豊かな社会と企業の成長1：大企業の実態と企業の長期戦略	
	第3回	豊かな社会と企業の成長2：大企業と消費者，企業と国家	
	第4回	復習と議論1：財・サービスの提供機関としての企業	
	第5回	株式会社制度の理論と現実1：株式会社の機能と構造	
	第6回	株式会社制度の理論と現実2：株式会社における制度と実態の乖離	
	第7回	復習と議論2：株式会社としての企業	
	第8回	企業の変容と新しい企業観の登場1：大企業の支配構造，性格と機能	
	第9回	企業の変容と新しい企業観の登場2：大企業のコーポレート・ガバナンス	
	第10回	復習と議論3：大企業としての企業	
	第11回	組織と管理1：企業組織の諸形態，環境変化への適応と変革	
	第12回	組織と管理2：管理論の展開	
	第13回	復習と議論4：組織としての企業	
	第14回	総括1	
	第15回	総括2	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。復習回では，議論や練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。		
テキスト	資料を適宜配布する形式。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	企業経営論は，現代社会の理解に必要不可欠な企業を対象とする学問です。本講義の受講を通じて，企業について経済的・組織的・制度的に理解し，現代社会に求められる知識を修得しましょう。		
評価方法	試験(100%)		
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。		
備考	シラバスの内容については，変更になる場合がある。		

講義科目名称：経営情報演習（40400）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Excelを使用してビジネスの現場で求められる基本的なデータ加工について学修し、効率的・効果的に業務遂行することができるスキルを身に付けます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 計算：売上日報，支店別売上実績表，交通費精算書</p> <p>第3回 計算：時間帯別客単価，仕入予定表</p> <p>第4回 集計：在庫棚卸表，販売店別機種別売上表</p> <p>第5回 集計：売上成績比較，顧客別売上集計表，全店経費集計表</p> <p>第6回 集計：研修会申込記録，アンケート集計</p> <p>第7回 復習と応用1：計算と集計を理解する</p> <p>第8回 グラフ作成：事業別売上高推移</p> <p>第9回 グラフ作成：商品別問合せ件数推移，社員構成比率</p> <p>第10回 復習と応用2：グラフ作成を理解する</p> <p>第11回 データベース：社員名簿</p> <p>第12回 データベース：宿泊施設一覧，売上台帳</p> <p>第13回 復習と応用3：データベースを理解する</p> <p>第14回 文書作成：見積書，請求書</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	研修で用いられるレベルの練習問題に取り組む。操作方法をスクリーンに投影しながら，演習講義を進める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	知識定着のため，各回につき1時間程度の復習が望ましい。
テキスト	資料を適宜配布する形式。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Excelは失敗しても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで，誰でもできるようになります。「できた！」という体験を積み重ねて，成功することや達成することの喜びを感じつつ，知識を修得していきましょう。
評価方法	課題提出（100%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディア文化論（40511）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. メディアの発展について歴史的側面から概観し、研究に必要な方法論を習得する。 2. 現代社会においてメディアが有している文化的・社会的意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 「メディア」とは何か メディア論の射程</p> <p>第2回 メディアの歴史と「メディア史観」</p> <p>第3回 記号とコミュニケーション</p> <p>第4回 メディアの作用</p> <p>第5回 言語コミュニケーション／非言語コミュニケーション</p> <p>第6回 メディア・アイデンティティ・身体</p> <p>第7回 コミュニケーション様式の変化とメディアのデジタル転回</p> <p>第8回 マスコミュニケーションと日常のグローバル化</p> <p>第9回 メディアと公共圏</p> <p>第10回 監視と権力</p> <p>第11回 現代資本主義と文化産業</p> <p>第12回 欲望と流行のメディア／交換と贈与の体系</p> <p>第13回 視覚文化と表象</p> <p>第14回 コンテンツ分析の方法論</p> <p>第15回 インターメディア／オルタナティブ・メディア</p>
授業概要	メディア論／記号論／映像理論といったメディアをめぐる諸理論を概観し、かつそれらの諸観点に基づいて、メディアとその発展史ならびに文化的特性について分析的に講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を求めます。授業中に案内しますが、普段から良質のドキュメンタリーや報道番組、あるいは映画・映像作品を視聴／鑑賞することを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	池田理知子・松本健太郎編著『メディア・コミュニケーション論』、ナカニシヤ出版、2010年、2200円（本体価格）、購入方法等については別途指示します。その他の資料については適宜プリント等配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題レポートを活用した質問・意見交換などを通じて、今日のメディア社会に課せられた諸問題について、皆さんが自分自身で「考える」力を身につけられるように工夫します。
評価方法	授業中の提出課題40％、期末レポート60％。
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディア表現論（40521）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタル表現・制作の現場において必要とされる技術的知識を習得する。 2. メディア表現に関する理論と枠組みを表現史の観点から理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス デジタルデータの形式</p> <p>第2回 デザインの歴史</p> <p>第3回 メディア表現とデザイン</p> <p>第4回 文字の情報処理</p> <p>第5回 タイポグラフィとデザイン</p> <p>第6回 色彩の情報処理</p> <p>第7回 商業印刷における色彩表現</p> <p>第8回 色彩調和と配色の理論</p> <p>第9回 写真表現の歴史</p> <p>第10回 写真表現と理論</p> <p>第11回 (デジタル) 写真の原理</p> <p>第12回 デジタル動画とアニメーションの理論</p> <p>第13回 デジタル動画とアニメーションの実践</p> <p>第14回 デジタル音楽制作の理論</p> <p>第15回 デジタル音楽制作の実践</p>
授業概要	現代のデジタル表現技術に関して、その前提となる表現史、表現理論、ならびに制作の方法論を講義形式で概観します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	タイポグラフィ、色彩論、写真表現、デジタル動画／音楽のそれぞれの分野について、課題レポート／作品レビュー等の提出を求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実作品の鑑賞や解説などを可能な限り混じえることで、技術的な知識と表現の歴史・技法の解説とが、受講生の皆さんの創作的意欲につながるような授業にします。
評価方法	授業での課題提出・小テスト70%、期末課題30%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：視覚文化論（40531）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガ／アニメと教育</p> <p>第3回 マンガ／アニメの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガ／アニメとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ／アニメの物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ／アニメ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガ／アニメと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガ／アニメの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ／アニメ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	

講義科目名称：メディア制作演習（40540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. イラストレーション／ポスターデザイン／エディトリアルデザインの制作技術を習得する。 2. 単なる操作技術ではない、表現手段としての技能と方法論を理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ドローソフトによる描画（パス）について</p> <p>第3回 シンボルマークの制作</p> <p>第4回 名刺の制作（文字組みの方法論）</p> <p>第5回 地図・インフォグラフィックスの制作</p> <p>第6回 写真補正の実践と特殊効果</p> <p>第7回 テクスチャー素材の制作</p> <p>第8回 フライヤーの制作（立案）</p> <p>第9回 フライヤーの制作（レイアウトと構成）</p> <p>第10回 フライヤーの制作（仕上げと講評）</p> <p>第11回 イラストレーションの技法</p> <p>第12回 イラストレーションの制作プロセス</p> <p>第13回 作品制作の構想案作成とプレゼンテーション</p> <p>第14回 最終課題作品の制作(1)（導入）</p> <p>第15回 最終課題作品の制作(2)（仕上げと講評）</p>
授業概要	<p>Adobe社のIllustrator・Photoshopを用いたデザインやアート表現を、制作を通して実践的に学びます。毎回の演習課題は実地の制作同様のスタイルで進めていきます。自ら考えて表現しようとする意志を要求する授業です。最終的に自由制作課題作品を1点提出してもらいます。</p> <p>本演習は1年次後期の「メディア表現論」を既履修であることを前提に行われますので、そのつもりで履修すること（詳細は「受講生へのメッセージ」欄を参照）。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>授業時間中に行うのは、原則としてソフトウェアの機能や操作、何ができるのか、ということの解説が主となりますので、授業で提示した課題については各自空き時間などに作業をしてもらうこととなります。制作のための写真撮影やデジタル素材集め、スケッチ・レイアウト構成の下書きなどの準備作業も必要となります。</p>
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>後期の講義科目の「メディア表現論」の実践演習と捉えてください。「メディア表現論」の履修はカリキュラム上の必須条件ではありませんが、本演習は同講義で解説した知識が習得済であることを前提に行われます。「メディア表現論」の単位を習得せずに本演習を履修しようとする方は必ず事前に面談に来ること。あらかじめ修得しておくべき知識に不足がみられる場合には履修を認めないこととなります。</p>
評価方法	演習課題の提出70%、最終課題作品（提出必須）30%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディアリテラシー（40550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアの特徴や修辞法を学ぶことにより、メディアが伝えたい物は何かを知り、物事を批評する力を身につける。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	私のメディア史	
	第3回	メディアは構成される	
	第4回	メディアがリアリティを作る	
	第5回	メディアの伝える価値観・商業主義	
	第6回	ツイッターの広報戦略を、メディア分析の三角形モデルで考える	
	第7回	Checkologyで学ぶニュース・リテラシー	
	第8回	撮影と編集の練習・先輩の作品鑑賞	
	第9回	ビデオ撮影と編集	
	第10回	映像編集体験（ドローン動画）	
	第11回	映像編集体験（ドローン動画）	
	第12回	映像編集体験（自由制作）	
	第13回	映像編集体験（自由制作）	
	第14回	映像編集体験（自由制作）	
	第15回	ビデオ作品鑑賞会	
授業概要	メディアリテラシーに関するトピックを取り上げて講義した後、実際にiMacでビデオ編集作業を行って「メディアは構成される」ことを理解する。撮影用のビデオカメラは本学備品を貸し出す。なお、編集したビデオ作品は提出してもらうので、授業時間外でも自主的に作業を進めるくらいの熱意ある学生を歓迎する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2年に一度、山形市で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されます。山形市の山形ビッグウイング内にある山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーでは、この映画祭の出展作品を無料で視聴することができます。関心のある学生は、是非見に行ってください。 なお、使用するiMacの台数に限りがあるため、新型コロナウイルスの感染状況によっては履修人数を18名までに制限することがあります（希望者多数の場合は抽選を行います）。		
評価方法	ビデオ作品・その他課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：応用データ分析（40561）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	前期の「基礎データ分析」の授業と合わせて「日商簿記検定2級（商業簿記）」の範囲を網羅し、検定で求められている知識とスキルを習得する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、前期授業の復習 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 純資産の処理 その1</p> <p>第3回 純資産の処理 その2</p> <p>第4回 純資産の処理 その3</p> <p>第5回 純資産の処理 その4</p> <p>第6回 本支店会計 その1</p> <p>第7回 本支店会計 その2</p> <p>第8回 本支店会計 その3</p> <p>第9回 本支店会計 その4</p> <p>第10回 合併・事業譲渡</p> <p>第11回 連結会計 その1</p> <p>第12回 連結会計 その2</p> <p>第13回 連結会計 その3</p> <p>第14回 連結会計 その4</p> <p>第15回 連結会計 その5</p>
授業概要	前期の「基礎データ分析」の授業で学習した「報告式」の財務諸表や「税効果会計」および「仕訳」の処理をさらに展開する形で、まず、株式の処理に代表される「資本金」の手続きについて学習する。次に、「本支店会計」や「合併・譲渡」、「連結会計」について学習する。
実務経験及び授業の内容	前期の「データ分析入門」の続きなので、この授業の内容を理解している必要がある。
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間とする。
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	簿記の知識とスキルは、企業を取り巻く経済環境だけではなく企業活動が私たちの生活に与える影響を理解するのに役立つので、ぜひ学んでほしいと思います。
評価方法	授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20% 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

講義科目名称：情報コミュニケーション(40571)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、主にTOEIC向けの対策問題をこなすことにより言語能力の向上を目指す。目的は二つである。 (1) 社会人に求められている英語コミュニケーション能力を身につけることである。(2) 外国語を学習することは自国語を探究することなので、自国語への理解を深めることである。
授業計画	<p>第1回 文法の問題（その1） ガイダンス。</p> <p>第2回 文法の問題（その2）</p> <p>第3回 文法の問題（その3）</p> <p>第4回 文法の問題（その4）</p> <p>第5回 読解の問題（その1）</p> <p>第6回 読解の問題（その2）</p> <p>第7回 読解の問題（その3）</p> <p>第8回 読解の問題（その4）</p> <p>第9回 読解の問題（その5）</p> <p>第10回 読解の問題（その6）</p> <p>第11回 リスニング（その1）</p> <p>第12回 リスニング（その2）</p> <p>第13回 リスニング（その3）</p> <p>第14回 リスニング（その4）</p> <p>第15回 リスニング（その5）</p>
授業概要	英文法への理解を深めながらTOEICの問題を解く。学習者の主体的な学びという方式で進める。1限目には文法の解説・確認をして、2限目には問題を解く。第1回から第10回目の授業ではリーディングの問題を解くが、TOEIC・PART 7の長文の問題に重みを置く。第11回から第15回目の授業ではリスニングの問題を解く。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、9時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は135時間としている。
テキスト	適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	言語力を高めたい、コミュニケーション能力を向上させたい、検定を受けてみたい、社会に出たら必要になるかもしれないから勉強しておきたい等、と思っている人を対象とした授業です。
評価方法	授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20% 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	特に指定しない。
備考	

講義科目名称：データ分析入門（40581）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	後期の「応用データ分析」の授業と合わせて「日商簿記検定2級（商業簿記）」の範囲を網羅し、検定で求められている知識とスキルを習得する。
授業計画	<p>第1回 カイダンス、簿記の基本的な概念および「勘定式」の財務諸表の復習 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 「報告書式」の財務諸表</p> <p>第3回 費用・収益の認識基準</p> <p>第4回 税効果会計 その1</p> <p>第5回 税効果会計 その2</p> <p>第6回 税効果会計 その3</p> <p>第7回 銀行勘定調整表・当座預金</p> <p>第8回 約束手形・電子記録債権</p> <p>第9回 有形固定資産</p> <p>第10回 リース取引</p> <p>第11回 無形固定資産・研究開発費</p> <p>第12回 外貨取引 その1</p> <p>第13回 外貨取引 その2</p> <p>第14回 有価証券 その1</p> <p>第15回 有価証券 その2</p>
授業概要	商業簿記の基本的な「仕訳」、および「勘定」と「財務諸表」の仕組みを理解している必要がある。したがって、短大の「会计学（簿記）」、「応用情報処理演習Ⅱ」、「応用情報処理演習Ⅲ」のいずれか、あるいは高校で会計・簿記を学習している人を対象としている。「授業計画」のとおり、商業簿記検定3級の対策講座で学習する「勘定式」の財務諸表を復習した後に「報告式」の財務諸表について学ぶ。次に、「税効果会計」の意味と仕組みを確認したうえで、商業簿記2級の仕訳の切り方を確認する。
実務経験及び授業の内容	商業簿記の発展科目なので、上の「授業概要」に記載されている予備知識が必要である。
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間の目安は67.5時間とする。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	簿記の知識とスキルは、企業を取り巻く経済環境だけではなく企業活動が私たちの生活に与える影響を理解するのに役立つので、ぜひ学んでほしいと思います。
評価方法	授業課題およびノートの点検：40%。 期末試験：40%。 平常点：20%。 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。

備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」, 「授業概要」, 「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

講義科目名称：データベース概論（40590）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】企業で扱う顧客情報や商品情報など、ICT社会の根幹を担うデータベースの基礎的な事項を理解する。</p> <p>【到達目標】業務にて小規模なデータベースシステムを取り扱う場合を想定して、業務に必要なスキルを身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 前半(第2回から第5回)はデータベースに関する基礎知識について学ぶ。 後半(第6回から第15回)は前半で学んだ基礎知識をもとにデータベースの実習を行う。</p> <p>第2回 データとデータベース</p> <p>第3回 テーブルとその構造、主キーと外部キー</p> <p>第4回 リレーションシップ、データの正規化</p> <p>第5回 データの正規化</p> <p>第6回 テーブルの設計と作成、主キー設定</p> <p>第7回 テーブル設計、外部データのインポート</p> <p>第8回 主キーと外部キー、リレーションシップの作成 課題1</p> <p>第9回 クエリの作成</p> <p>第10回 クエリによるレコードの抽出</p> <p>第11回 クエリによるグループ化と集計</p> <p>第12回 フォームを活用したテーブルへのデータ登録 課題2</p> <p>第13回 レポートを活用した帳票とその設計</p> <p>第14回 レポートを活用した帳票とその設計</p> <p>第15回 まとめ 期末課題</p>
授業概要	データベースは難しい概念があるため、講義とともに、実際にパソコンを使って実習を行い、基礎的な知識や技術の確実な定着を図ります。データベースシステムはMicrosoft Accessを使用します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしデータベース概論の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題の作成に取り組みます。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	情報リテラシーの基礎は習得済みとして講義を行います。授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。出席確認は呼名により行います。
評価方法	授業時課題(課題1、課題2)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を60%、期末課題の得点の合計点(各小問の配点の総合計を期末課題の満点とする)を40%
参考文献	図書館にはデータベースに関連する書籍が多数所蔵されています。
備考	

講義科目名称：プログラミング 1 (40613)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】1. プログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成する</p>
授業計画	<p>第1回 プログラミング、開発環境について 本講義で使用するプログラミング言語はVisual Basic For Applicationを用います。</p> <p>第2回 計算と入出力：文字列の取り扱い</p> <p>第3回 計算と入出力：数値（整数）の取り扱い</p> <p>第4回 計算と入出力：数値（小数）の取り扱い</p> <p>第5回 処理の選択：If文 課題1</p> <p>第6回 処理の選択：If文による処理の多重分岐</p> <p>第7回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い 課題2</p> <p>第8回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い</p> <p>第9回 条件分岐処理：Select Case文 課題3</p> <p>第10回 繰り返し処理：Do While～Loop文</p> <p>第11回 繰り返し処理とワークシートの操作 課題4</p> <p>第12回 繰り返し処理：For～Next文</p> <p>第13回 配列</p> <p>第14回 動的配列</p> <p>第15回 まとめ 期末課題(問題1、問題2)</p>
授業概要	プログラムを作成することでコンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング1の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	プログラム作成はトライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。授業回数2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。
評価方法	授業時課題(課題1～課題4)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を満点)を40%、授業で作成した例題プログラムの提出点の合計(作成した例題プログラムの総数×1点を満点)を20%、期末課題(問題1～問題2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を満点)を40%
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が多数所蔵されています。
備考	

講義科目名称：プログラミング 2 (40614)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】 1. Webプログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成できる</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、JavaScriptの基本的な記述方法 本講義で使用するプログラミング言語はJavaScriptを用います。</p> <p>第2回 JavaScriptの基本的な記述方法</p> <p>第3回 変数とデータ型</p> <p>第4回 条件分岐：if命令 課題1</p> <p>第5回 処理の多重分岐：else if命令、switch命令</p> <p>第6回 繰り返し処理：while命令、do...while命令 課題2</p> <p>第7回 繰り返し処理：for命令、for...in命令</p> <p>第8回 関数の定義とその利用 課題3</p> <p>第9回 イベントの発生とその取り扱い方法</p> <p>第10回 JavaScriptからHTML要素を扱う 課題4</p> <p>第11回 タイマー処理の実現</p> <p>第12回 Canvas要素によるグラフィック操作</p> <p>第13回 Canvas要素によるグラフィック操作とアニメーション</p> <p>第14回 Canvas要素によるアニメーション</p> <p>第15回 Canvas要素によるアニメーション、まとめ 期末課題（問題1、問題2）</p>
授業概要	プログラムを作成することで、コンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング2の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	プログラム作成は一度で全てが上手くいくことはなく、トライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。授業の出席確認は呼名により行います。
評価方法	授業時課題(課題1～課題4)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を満点)を40%、動作確認を行った例題プログラム提出点の合計(例題プログラムの総数×1点を満点)を20%、期末課題（問題1、問題2）の得点の合計点(各問題の配点の総合計を満点)を40%
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が所蔵されています。
備考	

講義科目名称： I T概論 (40620)

授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ネットワーク、セキュリティなどIT技術に関する基本的な考え方や特徴などを学ぶ。 【到達目標】IT技術やPCの仕組みなどについての知識や技術を説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マルチメディア</p> <p>第3回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第4回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第5回 集合と論理演算、文字の表現</p> <p>第6回 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>第7回 コンピュータ構成要素</p> <p>第8回 システム構成要素</p> <p>第9回 システムの信頼性</p> <p>第10回 オペレーティングシステム、ソフトウェア</p> <p>第11回 ネットワークの形態とプロトコル</p> <p>第12回 インターネットの仕組みとそのサービス</p> <p>第13回 情報セキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティ対策</p> <p>第15回 暗号化技術</p>
授業概要	昨今のICT社会を反映して通常のパソコン操作はできるものの、トラブルには対応できないなどの不安を持つ者も多い。これは知識や技術の不足が主な原因であるため、講義ではこのコア知識を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしIT概論の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。【事後学修】として配布資料や参考文献などをいま一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理してください。(所要時間：各回2～4時間程度)
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	口頭で説明した内容が重要な内容である場合も多いため、配布資料にマーキングを行う、ノートやメモを取るなどをして講義内容を頭で考え理解するように努めることが重要です。
評価方法	期末試験の点数(100点満点)を100% 期末試験の受験は授業回数の2/3以上の出席が受験資格の条件とします。期末試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。出席確認は呼名により行います。
参考文献	IT技術に関する書籍やITパスポート試験に関するテキストは図書館などに数多く所蔵されています。例えばITパスポート試験に関するテキストでは、FOM出版「よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」2,420円(税込み)があります。
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ一（40710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章を書けるようになる。 社会調査の手法を実践できるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション／レポート経験の共有：過去の作品を持ち寄って イントロダクション詳細 『実践 自分で調べる技術』第1章 調べるということ 『はじめての論理学』第5章 論文の設計図	
	第2回	テキスト編その1 『実践 自分で調べる技術』第1章 調べるということ／2章 文献や資料を調べる 『はじめての論理学』第1章 言葉の使い方を学ぶ／第2章 日本語と論理／第3章 文と文のつながり／第4章 論文の仕組み	
	第3回	レポート編その1－1	
	第4回	レポート編その1－2	
	第5回	テキスト編その2 『実践 自分で調べる技術』第3章 フィールドワークをする 『はじめての論理学』第5章 論文の設計図	
	第6回	レポート編その2	
	第7回	テキスト編その3 『実践 自分で調べる技術』第4章 リスクを調べる 『はじめての論理学』第6章 論証の定石	
	第8回	レポート編その3	
	第9回	テキスト編その4 『実践 自分で調べる技術』第5章 データ整理からアウトプットへ 『はじめての論理学』第6章 論証の定石	
	第10回	レポート編その4	
	第11回	テキスト編その5 『実践 自分で調べる技術』 アウトラインを手に入れる cf. 『はじめての論理学』5章 『はじめての論理学』第7章 反論の定石	
	第12回	レポート編その5	
	第13回	テキスト編その6 『実践 自分で調べる技術』 調査進捗報告 『はじめての論理学』第8章 反論の実践	
	第14回	レポート編6	
	第15回	成果発表	
授業概要			
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	90分		
テキスト	適宜指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			
評価方法	課題（100%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミ二（40720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、専門ゼミでの研究に向けた基礎的な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	導入	
	第2回	導入	
	第3回	導入	
	第4回	発表・演習	
	第5回	発表・演習	
	第6回	発表・演習	
	第7回	発表・演習	
	第8回	発表・演習	
	第9回	発表・演習	
	第10回	発表・演習	
	第11回	発表・演習	
	第12回	発表・演習	
	第13回	発表・演習	
	第14回	発表・演習	
	第15回	まとめ	
授業概要	社会心理学や政治学に関する文献を読んで、各回の担当者がレジュメにまとめて発表し、みんなで議論する。また、左記テーマに関連した演習を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	別途、教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2021年度は森山至貴「LGBTを読みとく」（ちくま新書）を読みました。その年度のゼミ生同士でどんな本を読むか話し合って決めるので、履修希望者は前もって考えておいてください。		
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミ三（40730）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	経営に関する基礎的・専門的知識について全国レベルで資格認定する唯一の検定試験「経営学検定」の試験対策を通じて、実社会で生きていくために必要なマネジメント観を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 目標設定と戦略的な学習プロセスの策定</p> <p>第3回 企業システム：企業と経営，企業・会社の概念と諸形態</p> <p>第4回 企業システム：所有・経営・支配と経営目的，コーポレート・ガバナンス</p> <p>第5回 経営戦略：体系と理論，全社戦略</p> <p>第6回 経営戦略：事業戦略，機能別戦略</p> <p>第7回 経営組織：基礎理論，組織の基本形態</p> <p>第8回 経営組織：企業組織の諸形態，制度・管理・文化</p> <p>第9回 経営管理：基礎理論，マネジメントの階層とプロセス</p> <p>第10回 経営管理：経営計画，コントロール</p> <p>第11回 経営課題：M&Aと買収防衛策，経営のグローバリゼーション</p> <p>第12回 経営課題：企業経営と情報化，CSRと企業倫理</p> <p>第13回 模擬試験1</p> <p>第14回 模擬試験2</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	「経営学検定」の過去問題に取り組んだ上で，問題傾向の分析，解答の導き方を解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。
テキスト	経営能力開発センター編(2018)『経営学検定試験公式テキスト①経営学の基本』中央経済社。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どんなに難しいと思うようなことであっても，突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく，いかに簡単に捉えることができるか，という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	学生自身が設定した目標の達成率(100%)
参考文献	
備考	指定テキストを毎回持参してください。

講義科目名称：基礎ゼミ四（40740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			

授業のテーマ及び到達目標	就職活動や編入活動に必要な論理的思考や経済学の基礎知識の習得を目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス ゼミ参加者の学習履歴・学習目的により変更する可能性があります。 第1回目のゼミの際に使用テキストなど相談します。 テキストを利用する場合は、輪読形式で行います。	
	第2回	一国の経営（マクロレベル）①テーマ：資金循環	
	第3回	一国の経営（マクロレベル）②テーマ：雇用と教育	
	第4回	一国の経営（マクロレベル）③テーマ：投資	
	第5回	一国の経営（マクロレベル）④テーマ：国富	
	第6回	開発経済①テーマ：資源	
	第7回	開発経済②テーマ：街の場所	
	第8回	開発経済③テーマ：街道建設	
	第9回	開発経済④テーマ：街の発展	
	第10回	開発経済⑤テーマ：港の利用	
	第11回	個別企業の経営①テーマ：初期資源（初期賦存）	
	第12回	個別企業の経営②テーマ：投資	
	第13回	個別企業の経営③テーマ：生産	
	第14回	個別企業の経営④販売	
	第15回	まとめ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・設定されたテーマについて学生が考え、報告する形式をとります。 ・遠隔授業となった場合、Teamsを利用したリアルタイム講義の予定です。 		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習：各テーマにつき、自分で必要な場合は事前に調査等を行ってください（必要時間は各自の検索能力等によるため異なるが30分～1時間程度）。 復習：必要はありません。		
テキスト	参加者の学習履歴に合わせたテキストをゼミ内で指定します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学の知識があると株価や為替、景気など、新聞や経済ニュースの理解が容易になります。また、論理的思考ができたり、報告に慣れていたりすると進路選択の幅が広がるはずです。		
評価方法	ディスカッションへの参加およびパフォーマンス100%。 無断欠席は1回につき10%のマイナス評価。		
参考文献			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの配属前に質問がある場合は、メール（学生の手引き参照）にてご連絡ください。 ・ゼミの配属が決定したら、Teams→水曜5限：40740基礎ゼミ四（鈴木ゼミ）→Class Notebook→コンテンツライブラリー→講義の説明→講義の説明をよく読んでください。 		

講義科目名称：基礎ゼミ五（40750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 実際の作品分析を通して、記号論や映像論・写真論などの批評理論の基本的枠組を理解します。 2. 作品批評をプレゼンテーションとして発表し、かつコメントする能力を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作品分析の方法論</p> <p>第3回 視覚文化研究の文献講読(1)</p> <p>第4回 作品鑑賞と分析(1)</p> <p>第5回 受講生による報告発表(1)</p> <p>第6回 視覚文化研究の文献講読(2)</p> <p>第7回 作品鑑賞と分析(2)</p> <p>第8回 受講生による報告発表(2)</p> <p>第9回 視覚文化研究の文献講読(3)</p> <p>第10回 作品鑑賞と分析(3)</p> <p>第11回 受講生による報告発表(3)</p> <p>第12回 視覚文化研究の文献講読(4)</p> <p>第13回 作品鑑賞と分析(4)</p> <p>第14回 受講生による報告発表(4)</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	基本的には文献講読を行なったうえで、2～3人の受講生による作品分析と報告発表を演習形式で行います。分析に必要な理論や概念を発表の合間に講義します。本年はまず幾原邦彦監督作品を取り上げる予定ですが、その他受講生の興味・関心に応じて分析作品を決めていく予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げている映画・映像作品に関連する作品を別途鑑賞することを求めます。また受講生の報告発表の内容に関連してその他参考作品を提示してもらうこともあります。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の「鑑賞」と作品の「批評」とはまったく似て非なるものです。感性的に与えられたものについて分析的に捉えて考察する「眼」を養っていただければと考えています。
評価方法	報告発表70%、期末レポート課題30%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ七（40770）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】生活に深く浸透したITや企業における経営についてのより深い学びを行います。 【到達目標】ITと経営に関する知識について説明することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 システム要件定義、システム設計、システム開発における見積りの考え方。確認テスト</p> <p>第3回 テスト実施手順、テストの技法、テスト評価。確認テスト</p> <p>第4回 システム導入、システムの受け入れ、システム運用、システム保守。確認テスト</p> <p>第5回 ソフトウェア開発手法、ソフトウェア開発モデル。確認テスト</p> <p>第6回 プロジェクトマネジメントの意義とその目的。確認テスト</p> <p>第7回 プロジェクトマネジメントに必要な知識体系。確認テスト</p> <p>第8回 サービスマネジメントの意義とその目的、フレームワーク。確認テスト</p> <p>第9回 サービスレベル管理、サービス可用性管理。確認テスト</p> <p>第10回 サービスデスク。確認テスト</p> <p>第11回 ファシリティマネジメント。確認テスト</p> <p>第12回 システム監査の意義とその目的、システム監査のプロセス。確認テスト</p> <p>第13回 内部統制。確認テスト</p> <p>第14回 ITガバナンス。確認テスト</p> <p>第15回 まとめ。確認テスト</p>
授業概要	経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識し、特にプロジェクトマネジメント、システム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基礎知識を身に付けていく。またITパスポート試験の公開問題にもチャレンジしていく。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎ゼミ七の運営を行う。
時間外学習	【事前・事後学修】ITパスポート試験の合格に向けて、毎回指定した範囲の確認テストを実施する。テキストやノート等を参照しながらテスト範囲の内容の理解を深める。（所要時間：各回4時間以上）
テキスト	FOM出版、「よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」、FOM出版、2,420円（税込）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	IT概論・経営学入門は履修済みであること・学期末にITパスポート試験の受験を行うことをゼミ配属条件とする。
評価方法	確認テストの得点の合計点(確認テストの配点の総合計を満点とする)を80%、平常点を20%
参考文献	ITや経営に関するテキストが図書館に数多く所蔵されています。
備考	教科書や配布済み資料のすべてを毎回必ず持参してください。

講義科目名称：専門ゼミ一（40810）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究を実施するために必要な調査と進捗報告を通じて、知識・技術を習得する。		
授業計画	第1回	イントロダクション／レポート経験の共有：過去の作品を持ち寄って イントロダクション詳細 『実践 自分で調べる技術』第1章 調べるということ 『はじめての論理学』第5章 論文の設計図	
	第2回	卒業研究テーマの検討	
	第3回	卒業研究テーマの検討	
	第4回	卒業研究テーマの検討	
	第5回	経過報告	
	第6回	経過報告	
	第7回	経過報告	
	第8回	経過報告	
	第9回	経過報告	
	第10回	卒業研究のアウトライン検討	
	第11回	卒業研究のアウトライン検討	
	第12回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第13回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第14回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第15回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第16回	経過報告	
	第17回	経過報告	
	第18回	経過報告	
	第19回	経過報告	
	第20回	経過報告	
	第21回	結語パートの提出	
	第22回	初稿提出	
	第23回	修正点の指示・検討	
	第24回	経過報告	

	第25回	経過報告
	第26回	経過報告
	第27回	経過報告
	第28回	最終稿提出、冊子版の印刷
	第29回	報告会
	第30回	報告会
授業概要	研究経過の報告を基本として、内容について議論をおこないます。 研究テーマは、受講生の希望を基に練り上げますが、農山漁村と暮らし・置賜地方に関連するテーマで調査（インタビューや参与観察）を行う学生が多い傾向があります。 社会学の用語や考え方をより集中的に学びたいという希望があれば以下の参考文献の読解もおこないます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	各回1時間程度	
テキスト	研究テーマに即して適宜指示するので、不要です。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）		
評価方法	卒業研究課題（100%）	
参考文献	友枝敏雄ほか編、2017、『社会学の力 最重要概念・命題集』有斐閣 長谷川公一ほか編、2019『社会学（New Liberal Arts Selection） 新版』有斐閣	
備考		

講義科目名称：専門ゼミ二（40820）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、卒業研究の作成に必要な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	先輩の卒業論文（卒論）を読む	
	第3回	行動科学概論の復習（文献検索・レポートの書き方）	
	第4回	行動科学概論の復習（統計ソフト・フィールドワーク・アンケート・実験の方法）	
	第5回	卒論テーマと構成を練る	
	第6回	研究計画の作成	
	第7回	研究計画の発表と議論	
	第8回	研究計画の発表と議論	
	第9回	研究計画の発表と議論	
	第10回	研究計画の発表と議論	
	第11回	研究計画の発表と議論	
	第12回	研究計画の発表と議論	
	第13回	研究計画の発表と議論	
	第14回	研究計画の発表と議論	
	第15回	研究計画の発表と議論	
	第16回	卒論中間提出・第1回添削校正大会	
	第17回	中間発表と個別指導	
	第18回	中間発表と個別指導	
	第19回	中間発表と個別指導	
	第20回	中間発表と個別指導	
	第21回	中間発表と個別指導	
	第22回	中間発表と個別指導	
	第23回	中間発表と個別指導	
	第24回	中間発表と個別指導	
	第25回	中間発表と個別指導	

	<p>第26回 卒論原稿提出・第2回添削校正大会</p> <p>第27回 卒論完成版の作成</p> <p>第28回 卒論完成版の作成</p> <p>第29回 論文集編集大会</p> <p>第30回 論文集の完成</p>
授業概要	<p>前期はオリエンテーションや復習などを行った後、卒業論文の研究計画について、順番に各自発表してもらい、議論を行う。後期は卒業論文の中間提出と添削校正を行った後、順番に中間発表と個別指導を進め、編集作業などを経て、最後に論文集を完成する。各自の研究テーマは自由であるが、政治や社会心理、文化などについて問題意識を持つ学生を歓迎する。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。</p>
テキスト	<p>なし。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>人間や社会に対する好奇心が旺盛で、自主的に卒業研究に取り組み、締め切りまでに卒業論文を提出できる学生を歓迎します。これまでのゼミ生が書いた卒業論文は亀ヶ谷研に保存してあるので、読みたい学生は借りに来て下さい。</p>
評価方法	<p>授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ三（40830）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	組織を対象とした経営研究を通じて、経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などから自らが選択した学問領域の理論や方法を学修し、実際にそれらの知識を運用するスキルを身に付ける。		
授業計画	第1回	ガイダンス：研究分野とリサーチサイト	
	第2回	リサーチクエスチョン：仮説発見と仮説検証，魅力と現実	
	第3回	リサーチクエスチョン：先行研究の調査方法	
	第4回	リサーチクエスチョンの報告に向けて1	
	第5回	リサーチクエスチョンの報告に向けて2	
	第6回	リサーチクエスチョンの報告と議論	
	第7回	アカデミックライティングの作法：概要と必要性	
	第8回	アカデミックライティングの作法：倫理観とペナルティ	
	第9回	アカデミックライティングの作法：模倣と新規性	
	第10回	個別指導1	
	第11回	個別指導2	
	第12回	個別指導3	
	第13回	個別指導4	
	第14回	報告と議論1	
	第15回	報告と議論2	
	第16回	進捗状況の報告と計画の修正	
	第17回	個別指導5	
	第18回	個別指導6	
	第19回	個別指導7	
	第20回	個別指導8	
	第21回	個別指導9	
	第22回	個別指導10	
	第23回	個別指導11	
	第24回	個別指導12	
	第25回	個別指導13	

	<p>第26回 個別指導14</p> <p>第27回 個別指導15</p> <p>第28回 口頭試問1</p> <p>第29回 口頭試問2</p> <p>第30回 口頭試問3</p>
授業概要	<p>広く細分化された経営学術領域のうち、どの分野を自陣とするのか、その分野でどのような役割を担うのか、などの基本的研究姿勢について説明した後、個別に研究を進める形式。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>基本的に各自の自主性に委ねる。ドキュメンタリー、ニュース、新聞などで自身の研究に関連するものがあれば閲覧すること。</p>
テキスト	<p>各自の適性に合わせて指定する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>本ゼミは、学生ひとりひとりに適した研究テーマや研究手法を提案して指導する完全個別指導型です。時間で割り当てられた時間ではひとつの空間に集合して作業してもらいますが、各々の主たる作業は授業時間外でおこなってもらいます。</p>
評価方法	<p>成果物(100%)</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ四（40840）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	自ら選択したテーマにつき卒業研究（論文）を仕上げることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	テーマ選択方法（卒業研究テーマになるものとならないものなど）	
	第3回	参考文献検索方法の習得・テーマ選択のための検索	
	第4回	卒業論文を作成できるテーマ選択	
	第5回	テーマ報告	
	第6回	マインドマップの描き方の説明	
	第7回	マインドマップ作成	
	第8回	作成したマインドマップのチェック	
	第9回	チェックを受けてマインドマップを修正する	
	第10回	マインドマップ完成・報告	
	第11回	論文用の文章の書き方（文語と口語の区別など）	
	第12回	論文構成とその例	
	第13回	テーマとマインドマップを元に章構成をする	
	第14回	章構成チェック・章構成の決定	
	第15回	夏休みの予定作成・研究計画書の作成	
	第16回	夏休みの進捗状況報告・研究計画書提出	
	第17回	個別指導①先行研究の確認	
	第18回	個別指導②分析手法の確認	
	第19回	個別指導③第1節の提出（研究目的・研究背景・先行研究）	
	第20回	個別指導④第2節（またはそれ以上）の提出	
	第21回	初稿提出	
	第22回	修正指導①個別指導（ゼミの半分の学生対象）	
	第23回	修正指導②個別指導（ゼミの半分の学生対象）	
	第24回	報告用資料作成①PPTファイルの作り方・各自作業	
	第25回	報告用資料作成②各自作業およびチェック	

	<p>第26回 報告会①（ゼミの半分学生による発表）</p> <p>第27回 報告会②（ゼミの半分学生による発表）</p> <p>第28回 報告会での指摘の修正</p> <p>第29回 最終稿ファイルの提出・印刷</p> <p>第30回 卒業論文集の作成</p>
授業概要	論文作成のために必要な知識や技術の説明を受けた後、個別に作業を行っていただきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回のテーマに従って月に1度報告のための作業をしていただきます。
テキスト	マインドマップの描き方および論文の書き方の書籍をゼミ内で指定します。 テキストは貸し出すので購入する必要はありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究では論文を提出していただきます（期限厳守）。 研究報告を定期的に行うことで、プレゼンの仕方も学習します。
評価方法	提出課題20%，報告20%，卒業論文（期限内提出）60%。 無断欠席は1回につき20%のマイナス評価。 締切に遅れた卒業論文の評価はゼロ（＝留年決定）。
参考文献	
備考	遠隔授業の場合は、Teams、ClassNoteBookを利用します。 米沢女子短期大学からの公式発表に従って、第1回の講義に参加すること。

講義科目名称：専門ゼミ五（40850）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタルアート／メディアアート／サブカルチャーなどの分野の作品研究を通して現代の表現について理解する。 2. 作品研究によって得た知識を元に作品制作を行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	文献講読(A) (映像表現)	
	第3回	ワークショップ(A1)	
	第4回	ワークショップ(A2)	
	第5回	文献講読(B) (イラストレーション)	
	第6回	ワークショップ(B1)	
	第7回	ワークショップ(B2)	
	第8回	文献講読(C) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第9回	ワークショップ(C1)	
	第10回	ワークショップ(C2)	
	第11回	文献講読(D) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第12回	ワークショップ(D1)	
	第13回	ワークショップ(D2)	
	第14回	作品研究論文の構想発表(1)	
	第15回	夏季の課題と習作の構想・計画	
	第16回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(1)	
	第17回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(2)	
	第18回	作品研究に関するブックレビュー(1)	
	第19回	作品研究に関するブックレビュー(2)	
	第20回	作品研究論文の構想発表(2)	
	第21回	制作作品の構想発表	
	第22回	文献講読(E) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第23回	ワークショップ(E1)	
	第24回	ワークショップ(E2)	

	第25回	作品研究論文の経過報告(1)
	第26回	制作作品の経過報告(1)
	第27回	作品研究論文の経過報告(2)
	第28回	制作作品の経過報告(2)
	第29回	制作作品の提出と講評
	第30回	卒業制作作品展の準備、作品研究論文の提出
授業概要	<p>卒業研究として研究論文の執筆ならびに作品の制作を行います。映像作品制作やデジタル音楽制作、あるいはいわゆるサブカルチャー研究を活動範疇とし、研究と制作の両方を実践的に学びます。前期はメディア文化史に関する文献講読、ならびに情報デザインと表現技法についてのワークショップを行います。夏期休業中には各人の興味に応じた課題（写真500枚以上あるいはイラスト50枚以上、その他応相談）ならびに習作の提出を課します。後期には各人の卒業制作作品と研究論文について、定期的に報告発表をしてもらいながらその最終的な完成を目指します。</p> <p>「メディア文化論」「メディア表現論」「コミュニケーションデザイン論」のうち、少なくとも2科目を既履修であることが望ましいです。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	論文と制作のどちらを主にするかは受講生の志向次第ですが、研究室の機関誌を年数回発行しますので、誌上で批評・習作・エッセイ・レビューなどを恒常的に発表してもらうことになります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品研究に関しては日頃からの作品鑑賞、作品制作に際しては日々の修練が求められます。またワークショップ形式での課題演習や集団制作などを頻繁に取り入れますので、デジタル加工技術の習得、主体性や創造性／想像力は勿論のこと、他の受講生との協調性・協働性も大きく問われます。	
評価方法	作品研究論文50%、制作作品50%（受講生の興味・関心・進路希望等に応じて比率は変動しますが、基本的には研究論文と作品の両方を提出することになります）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ六（40860）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	問題の発掘と解決・取り組み方について学習する。卒業研究を行うことで研究の心構え、進め方等を習得する。		
授業計画	前期	① 【専門ゼミ】 ガイダンス (a) 前期には勉強会および受講生によるプレゼンを実施する (b) 後期には勉強会と卒業研究の定期発表などを行う	
	前期	② ～ ⑤ 【卒業研究】 (a) 卒業研究の進め方等の説明 ※以下は個別面談・対応方式で行う（週一回）	
	前期	⑥ ～ ⑩ 【専門ゼミ】 受講者のプレゼン	
	前期	⑪ ～ ⑮ 【卒業研究】 調査系の場合（例） ・資料の収集、調査の計画、予備調査の実施、本調査の検討等	
	後期	① 【卒業研究】 卒業論文の下書きの作成。	
	後期	② ～ ⑤ 【専門ゼミ】 輪講・購読 【卒業研究】 ガイダンス	
	後期	⑥ ～ ⑩ 【卒業研究】 卒業論文の下書きの修正 【専門ゼミ】 卒業研究の進捗状況の定期発表。	
	後期	⑪ ～ ⑮ 【卒業研究】 卒業論文の添削・点検 【専門ゼミ】 卒業研究の進捗状況の定期発表。	
		【卒業研究】 論文の完成	
授業概要	【専門ゼミ】と【卒業研究】は異なった科目ではあるが、これらはセットになっていて、両方を履修することになる。このゼミでは次のように分けている。 ●【専門ゼミ】（4単位）勉強会。枠組みは「簿記」「データ分析」「言語」である。 ●【卒業研究】（2単位）卒業研究テーマを決めて進める。卒業研究は「簿記」「データ分析」「言語」の分野に関するテーマで行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、技術・スキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。		

テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上の枠組みとは異なる分野でも構いませんが、事前に相談に来てください。
評価方法	<p>詳細はゼミ紹介のガイダンス時に提示するが、概ね次のように取り組みを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【専門ゼミ・前期】 英語長論文の勉強会：プレゼンおよび、訳文の課題（15回） ●【専門ゼミ・後期】 データ分析：定期課題（15回） ●【卒業研究】卒業研究の成果物（卒業論文）
参考文献	初回に紹介する。
備考	【専門ゼミ】と【卒業研究】の授業内容は連動しているが、これらは別科目または単位も異なる。

講義科目名称：専門ゼミ七（40870）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】情報・地理情報・空間情報に関するテーマに対して、自ら取り組み、考え、解決し、成果を出す。</p> <p>【到達目標】実社会において必要な「与えられた仕事に対して、主体的に取り組み、考え、解決し、結果を出す力」を活用できる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	卒業研究のテーマの選定	
	第3回	卒業研究のテーマの選定	
	第4回	研究、調査等の遂行	
	第5回	研究、調査等の遂行	
	第6回	研究、調査等の遂行	
	第7回	研究、調査等の遂行	
	第8回	研究、調査等の遂行	
	第9回	研究、調査等の遂行	
	第10回	研究、調査等の遂行	
	第11回	研究、調査等の遂行	
	第12回	研究、調査等の遂行	
	第13回	研究、調査等の遂行	
	第14回	研究、調査等の遂行	
	第15回	研究、調査等の遂行	
	第16回	全体報告会① 研究の進捗状況を報告する	
	第17回	全体報告会② 研究の進捗状況を報告する	
	第18回	研究、調査等の遂行	
	第19回	研究、調査等の遂行	
	第20回	卒業論文執筆	
	第21回	卒業論文執筆	
	第22回	卒業論文執筆	
	第23回	卒業論文執筆	
	第24回	卒業論文執筆	

	第25回	卒業論文執筆
	第26回	卒業論文執筆
	第27回	卒業論文執筆
	第28回	卒業論文執筆
	第29回	卒業論文執筆
	第30回	卒業論文提出 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出。提出日時は厳守。
授業概要	情報・地理情報・空間情報を卒業研究のテーマとして取り扱う。各々が設定したテーマに基づいて卒業研究を進めていく。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし専門ゼミ七の運営を行う。	
時間外学習	ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として文献研究や報告会発表用のスライド資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、ゼミや卒業研究で必要な各種成果物の作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。	
テキスト	必要な資料は適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究のテーマに積極的かつ主体的に取り組む必要がある。各自で研究を計画的に進め、卒業研究の進捗状況を定期的に報告してほしい。	
評価方法	進捗状況の報告や全体報告会での報告を40%、卒業研究に関わる成果物など(卒業論文、報告会での報告資料、その他指定された成果物)を60%として評価する。卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出締め切り日時は厳守。	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミⅧ(40880)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業テーマ 学習者としての自立を目指す。</p> <p>到達目標 卒業論文の作成の過程において、人と関わる力や自己表現力及び主体性、論理性、計画性を身につけようとする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（論文作成の基本とゼミの進め方）</p> <p>第2回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第3回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第4回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第5回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第6回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第7回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第8回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第9回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第10回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第11回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第12回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第13回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第14回 研究計画作成と個別指導（研究計画完成の期限）</p> <p>第15回 夏休み前の発表会と意見交換（研究計画の発表会）</p> <p>第16回 卒業論文の作成と個別相談</p> <p>第17回 卒業論文の作成と個別相談</p> <p>第18回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第19回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第20回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第21回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第22回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第23回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第24回 卒業論文の作成と個別指導</p>

	第25回	卒業論文の作成と校正
	第26回	卒業論文の作成と校正
	第27回	卒業論文の作成と校正
	第28回	卒業論文の作成と校正（論文完成の期限）
	第29回	卒業論文の読み合わせと発表会
	第30回	卒業論文の読み合わせと発表会
授業概要	最初に論文を作成するための基本を確認します。その後、前期は研究計画についての一人一人の発表と議論を行い研究テーマを明確にしていきます。後期に入って、個別の助言を経て論文の完成に結びつけていきます。	
実務経験及び授業の内容	小・中学校及び高校での実務経験を生かして、より個性を尊重した授業にできればと考えています。	
時間外学習	授業はよりよい論文作りの議論が主となります。よって、実際の論文作成は時間外で行うことや、論文作成に必要な時間は少なくないことを理解してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配付します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	論文作成に当たっては、まず最初に自分の学びたいことや知りたいこと、他者に伝えたいことを明確にすることが大切です。そのことが意欲を高め、最終的に納得のいく論文の完成につながります。また、仲間と意見し合うことが研究テーマを明確にする側面もあります。ゼミの中でわからないことを相談し合うことのできる雰囲気を大切にしたいと思います。	
評価方法	課題解決への主体性及び協働性及び発表と議論の内容（60%） 卒業論文の内容（40%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ九（40890）

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究（論文）の作成に必要な知識やスキルを身に付ける。		
授業計画	第1回	研究の進め方	
	第2回	研究の進め方	
	第3回	研究の進め方	
	第4回	文献検索の方法	
	第5回	文献講読	
	第6回	文献講読	
	第7回	文献講読	
	第8回	文献講読	
	第9回	文献講読	
	第10回	文献講読	
	第11回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第12回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第13回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第14回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第15回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第16回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第17回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第18回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第19回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第20回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第21回	論文作成	
	第22回	論文作成	
	第23回	論文作成	
	第24回	論文作成	
	第25回	論文作成	

	第26回	論文作成
	第27回	論文作成
	第28回	論文作成
	第29回	論文作成
	第30回	論文作成
授業概要	スポーツの競技力向上や健康増進のための方法について、動作分析や実験を通して明らかにしていく。前期中に文献収集を通してテーマを決め、実験（または調査）、分析まで行う。後期は執筆作業を中心に進める。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	指定した文献や興味のある学術論文を探して読む。	
テキスト	各自のテーマに即した文献や資料を指示します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	スポーツや健康について興味があり、科学的な視点から追求してみたい学生を歓迎します。	
評価方法	卒業研究論文（70%）、授業への参加度（30%）	
参考文献		
備考		